



里山風景詩
 山と湖と人のゆるやかな絆
 琵琶湖の西に位置する高島は
 さまざまな自然の表情に
 出会う地です。
 山の深さも、湖の美しさも、
 ここに住む人たちの
 心につながり、
 人々はその豊かさに
 感謝しながら
 未来の人たちへと
 大切に手渡しています。
 環の郷、高島。
 これまでも、これからも
 山と湖と人が
 ともに生き、ともにある風景を
 言葉にのせてお届けします。

風の詩

受け継がれる技

昔から様々な場面で使われてきた扇子。その骨の部分、扇骨は安曇川流域の良質の竹を利用して約三百年も前からつくられてきています。その作業は約二百軒の工房でそれぞれの工程を分業し、今でもこうして手作業でつくり出されます。お邪魔した「仲じまい」の仕事場には、たくさん興味深い道具があり、美しく形を整えられていくその様子は、いつまで見ても飽きることはない見事な技でした。



受け継がれる技(安曇川)

憩いの百貨店

昭和八年に完成した朽木の丸八百貨店。平成九年には登録有形文化財に指定され、今は地元のおかあちゃんたちが喫茶店として復活させています。私がお邪魔した日のお昼のメニューはいなりずしとおでん。いなりずしをつくりながら話をしてくださっているところに近所の方が「これ使ってくれるか……」と持ってきたのは立派なしいたけ。地元の人にも他所から訪れる人にも親しまれているあたたかな雰囲気のある憩いの場です。



憩いの百貨店(朽木)

ゆるやかな時の流れ

マキノの在原には、今も数軒の茅葺き屋根の民家が住み継がれています。そばの花の美しい頃、一軒の茅葺きのおうちに入れていただきました。面白いおとうちゃんと大らかなおかあちゃん、そして、お台所には立派なおくどさん。窓を開けてもらうと、お隣の茅葺きの屋根がすぐ近くに見え、まるでタイムスリップしたようでした。厳しい自然と向き合う中で、力強く暮らしておられるこの土地の方々の姿は、とても印象的です。



ゆるやかな時の流れ(マキノ)

北村 美佳

一九七〇年、滋賀県大津市生まれ。里山での暮らしの中で身近な風景を描く。また、個展・二科展を中心に、風景をモチーフにした抽象的な大作を発表している。
 (二科会会友、滋賀県美術協会会員)